

日本家庭科教育学会編

## 『未来の生活をつくる：家庭科で育む生活リテラシー』

明治図書 2019年6月刊行

抜粋解説

家庭科教育が子どもたちの未来をつくる力を育ててきた事実（調査結果）と授業実践例を掲載

家庭科は70余年の歴史ある教科です。大きく変化してきた社会の中であって、人々がよりよく暮らし、働き、生活を豊かにすることを学習の中心と考え、数多くの教育実践（裏面参照）を蓄積してきました。とくに1994年以降は小学校5年生から高校生まで男女が共に学ぶ教科として成果を上げてきています（中面参照）。今後も、家庭科は生活リテラシーを育む教科として、激動する社会を生き抜く人を育成します。家庭科で育成する資質・能力には主として以下の4つの視点が含まれます。

### 視点1 生活の科学的認識

家庭科で学んだ内容は、社会人となり生活を営む中で多様な経験を積み、身をもって実感することで有用になります。そのために自らの生活を認識する方法を高校までに学んでおきたいと考えます。

### 視点2 生活にかかわる技能技術の習得

生活に関わる技能技術は家庭科で学ぶ内容の中でも、現在から未来へ続く人生の中で有用な学習内容の一つです。家庭科では単なる技能・技術としてではなく、応用ができる力、思考力を育む力として技能技術の習得を考えています。

### 視点3 他者との協力、協働、共生

家庭科では他者と協力しながら協働して自立することを大切な目標としています。日々の当たり前の生活の営みとともに、自己から広がる他者とのかかわりを重ねて、人間関係を形成するというわかりやすさが家庭科の学びの特徴です。

### 視点4 未来を見通した設計

家庭科では多様な社会問題や地域の問題を身近な事柄から考え、解決するという学びを大切にしています。この学びは最終的に学習者が現在から未来へと続く個人の生活を創り出すことにつながります。毎日の生活を積極的に営み、豊かに暮らすことを学ぶことはよりよい社会の実現にも貢献すると考えます。